

インフォメーション・コーナー

会 告

○平成 26 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて  Web 投稿締切 3 月 31 日	96
○平成 26 年度大会講演会における「企画セッション」の募集について 企画締切 2 月 14 日	96
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い	96
○CPD 単位の算出基準の一部改定について（平成 25 年度以降）	97
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集!!	97
○平成 27 年の学会誌表紙写真の募集 秋季～冬季締切 3 月 31 日	97
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！	98
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い	99
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012 年 1 月から 2014 年 12 月までの編集事務局（投稿先）のお知らせ	99
○平成 25 年度京都支部地方講習会・研修会の開催について（第 2 報）  参加申込締切 1 月 31 日	100
○第 51 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について（第 2 報）  参加申込締切 1 月 24 日	101
○平成 25 年度農業水利研究部会研究集会の開催について（第 1 報）  2 月 22 日開催	101
○水土文化研究部会第 11 回研究会の開催について（第 1 報）  2 月 27 日開催	102
○第 45 回セメント系固材セミナーの開催について 3 月 7 日開催	102
学会記事	103

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加下さるよう、お待ちしております。

 のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成 26 年 1 月 15 日	北海道支部	支部講習会 	—	札幌市	81 巻 12 号
平成 26 年 2 月 7 日	材料施工研究部会	第 51 回シンポジウム 	中国四国地方における農業生産基盤施設の防災	岡山市	81 巻 12 号 82 巻 1 号
平成 26 年 2 月 13 日	京都支部	平成 25 年度地方講習会・研修会 	—	名古屋市	81 巻 12 号 82 巻 1 号
平成 26 年 2 月 22 日	農業水利研究部会	平成 25 年度研究集会 	農業用水の多面的機能の増進と地域振興	東京都	82 巻 1 号
平成 26 年 2 月 27 日	水土文化研究部会	第 11 回研究会 	農業水利システムの果たした役割と今後の展開	東京都	82 巻 1 号
平成 26 年 8 月 26～29 日	大会運営委員会	平成 26 年度農業農村工学会大会講演会 	—	新潟市	81 巻 12 号 82 巻 1 号

第 82 巻第 2 号予定

展望：都市農業が拓く地域の未来：石田憲治

小特集：都市農業を支えるしくみと取組み

- ①大阪府における都市農業の推進と農空間の保全と活用について：向井 哲ほか
- ②横浜市農業専用地区制度が農業・地域振興に与える効果：沼尻勇太ほか
- ③都市農業の担い手としての援農ボランティアの役割：北川瑞季ほか
- ④「農空間づくりプラン」による地域力を活かした都市農業推進について：福永健治ほか
- ⑤農の風景育成地区制度について（東京都）：齋藤義彦

技術リポート

- 北海道支部：妹背牛地区における区画整理の効果事例：鈴木一平ほか
 東北支部：RC 巻立て工法による橋脚の改修：廣谷行治ほか
 関東支部：菊川右岸幹線水路における耐震工事事例：西沢美由貴ほか
 京都支部：奈良東部広域農道整備事業中之庄トンネルの LED 照明設備：寺本 卓ほか
 中国四国支部：経営高度化をめざす「ファーム西田口」における圃場整備：亀井央治
 九州沖縄支部：楠浦地区における地下灌漑システム（FOEAS）整備：宇都真一ほか

小講座：成熟社会における都市農地の位置づけの変化：九鬼康彰

私のビジョン：実践科学としての農村計画学の役割：中島正裕

平成 26 年度農業農村工学会大会講演会の講演申込みについて

12月号会告でお知らせしましたとおり、本年度より大会講演会の講演発表申込みは Web 投稿となります。

Web での投稿および原稿の受付は平成 26 年 3 月 1 日（土）から 31 日（月）までの期間になります。

Web 投稿方法の詳細は 2 月号会告にてお知らせしますので、大会講演会での講演発表を希望される方は、本誌次号をご覧ください。

平成 26 年度大会講演会における「企画セッション」の募集について

平成 26 年度大会講演会（8 月 26 日～28 日（29 日は現地研修会）、朱鷺メッセ新潟コンベンションセンター）における企画セッションの「オーガナイザーならびにテーマ」を募集します。企画セッションの「企画」をお持ちの方はふるってご応募下さい。

企画セッションのタイプは、オーガナイザーが事前に発表者を予定しておく「クローズド・タイプ」、発表者をオーガナイザーが公募する「オープン・タイプ」、のいずれかとなります。

企画の申込締切は 2 月 14 日（金）です。お申込みに当たって、下記事項を学会事務局（zenkokutaiikai@jsidre.or.jp）まで電子メールにてお知らせ下さい。

- 1) 企画セッションのタイプ：「オープン・タイプ」または「クローズド・タイプ」
- 2) 企画セッションのテーマ
- 3) オーガナイザーの氏名、所属、連絡先電話・FAX・E-mail
- 4) 企画セッションの概要（200 字以内）

なお、類似した企画が提案された場合、調整をお願いすることがあります。企画の採否については、研究委員会よりお知らせします。

「企画セッション」は、特定のトピックについて、原則 100 分間のセッションを、オーガナイザーが責任を持って企画・運営するセッションです。セッション内の進行は、通常の発表スタイルはもちろん、パネルディスカッションや会場の聴衆を含めた討論方式等も可能です。ただし、セッションを単独の演者が独占する講演会のスタイルは認められません。各セッションとも、最低 2～3 名以上の発表があることが前提です。なお、セッションの演者は会員であることを要しませんが、大会参加費のお支払いは必要です。

企画セッションの利用としては、各種プロジェクトの成果発表、特定テーマに関する最新情報の紹介等を想定しています

が、会員の皆様の自由な発想で企画セッションを活用して下さい。

企画セッションでの発表者は、**企画セッションと個人発表の各 1 件ずつの発表は認めますが、複数の発表は認めません**ので各オーガナイザーは発表者選定に当たり、この点に十分留意して下さい。

なお、企画セッションも要旨集に講演内容を掲載します。オーガナイザーにはセッションの原稿取りまとめをお願いします。また、各セッションは 100 分を予定していますが、プログラムのブロック割りのため、セッション時間が 100 分より多少前後する可能性があることをあらかじめご了承下さい。

各企画セッションの申込料は、講演題数にかかわらず一律 12,600 円となります。

今後のスケジュールは、以下のとおりです。

1. オーガナイザーとセッション・テーマの募集締切
2 月 14 日（金）
2. 研究委員会で調整の後、応募テーマの採否の連絡
2 月 28 日（金）頃
3. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募開始（発表希望者は各オーガナイザーに直接申し込む）
3 月 10 日（月）頃
4. 「オープン・タイプ」セッション発表者の公募締切
3 月 17 日（月）
5. オーガナイザーからセッションの講演要旨原稿の提出締切
3 月 31 日（月）

申込み・問合せ先

（公社）農業農村工学会事務局大会担当 宇津木あて
〒105-0004 東京都港区新橋 5-34-4 農業土木会館 3F
TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494
E-mail：zenkokutaiikai@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとな

り、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動

に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしております。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円（何口でも可）

法人会員一口 50,000円（何口でも可）

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行：みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 （社）農業農村工学会学術基金

郵便振替：00140-2-54031

加入者名 農業農村工学会学術基金

CPD 単位の算出基準の一部改定について（平成 25 年度以降）

農業農村工学会技術者継続教育機構では、第 22 回 CPD 運営委員会（平成 25 年 1 月 28 日開催）において「CPD 単位の算出基準」の検討を行い、平成 25 年度以降の研鑽記録を対象として、次の 4 つの教育形態区分の算出基準を改定いたしました。なお、詳細については本誌 3 月号（Vol.81/No.3）掲載の CPD ニュースレター 第 17 号および機構ホームページ（<http://www.jsidre.or.jp/cpd/>）をご覧ください。

① 【d】（認定されていない研修会等の受講）の年間上限値

を 20 CPD とする

② 【p】（認定されていない研修会等の講師）の年間上限値を 20 CPD とする

③ 【r】（成果を上げた業務—優良工事の表彰等—）を 1 件 20 CPD とする

④ 【x】（自己学習）の年間上限値を、農業農村工学会員については自動登録分の 10 CPD と自己申請分の 10 CPD を合わせ 20 CPD とする

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま安価に取得できる方法として、平成 17 年 10 月号より農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 CPD を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加下さい!!

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信して下さい。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3 カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

（例：学会誌 11 月号掲載の問題は 12 月末日が解答期限）

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 CPD を、7～9 問正解で 1.5 CPD を自動登録（正解数 6 問以下の場合は CPD 単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

平成 27 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、平成 27 年発行の学会誌も引き続き皆さまからの写真で表紙を飾ることとします。趣旨をご覧のうえ、ご応募下さい。

趣 旨

わが国において、土や水を取り扱う技術の歴史は農業とともに発展してきました。農業の発展の過程で造られてきた幾多の農業施設は、農地を形成し、水を送り、物と人をつなぎ、連綿と我々の生活を支えてきました。これらの農業施設のいくつか

は、長年の風雨にさらされながらも、機能を保ち続け、その地域の自然や文化に溶け込み、農村の景観を形成する重要な構成要素となっているものもあります。地域の人の悲願をかなえ続けてきたこれらの農業施設や構造物は、地域の人々によって大切に守り、管理された結果、四季折々に機能美と景観美を放ち続けているはずで

農業農村の現場で活躍される皆さま、日ごろ何気なく見過ごしているかもしれない農村地域における農業施設・構造物とそ

れを含む景観の美しさを再評価いただいて、忙しい業務の合間にも、足を止め、手を休めて写真として記録していただき、広く一般の方々にご紹介下さい。

記

1. テーマ

「農村地域における農業施設・構造物：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」

2. 対象巻号 学会誌第83巻（平成27年1～12月号）

3. 写真の種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（四つ切りワイド、A4サイズも含まれます）。なお、六つ切りは203×254mm、四つ切りは254×305mm、同ワイドは254×356mm、A4は210×297mmです。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。この場合の画像データ量は一点につき20MB以下とし、形式はJPEGのみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切 秋季～冬季 平成26年3月31日

春季 平成26年6月30日

夏季 平成26年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したのものに限ります。

6. 審査 審査委員会（編集委員と写真家）で選考します。

7. 結果発表

学会誌第83巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は平成27年度全国大会会場でパネル展示します。

8. 謝礼

採用作品には規定の賞金（1点につき3万円）をお支払いします。また、すべての応募作品が不採用となった応募者には記念品をお送りします。

9. 「Cover History（表紙写真由来）」について

採用作品の応募者には学会誌掲載の「Cover History（表紙写真由来）」をご執筆いただきます。詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。なお、些少ですが原稿料をお支払いします。

10. 使用权

採用作品の使用权は（公社）農業農村工学会に属します。

11. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること（花などの情緒物に埋没しないこと）が採用の条件となります。

12. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mailアドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称（固有名称）、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送り下さい。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL：03-3436-3418 FAX：03-3435-8494

E-mail：henshu@jsidre.or.jp

「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページに掲載の「農業農村工学会誌投稿要

項」、「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿下さい。

学会誌82巻の小特集のテーマ

小	特	集	テ	ー	マ	要 旨 縮 切 (A4判 1,500字以内)
82巻	2号	都市農業を支えるしくみと取組み（仮）				公募終了
	3号	東日本大震災から3年—これまでとこれから—（仮）				公募終了
	4号	コスト削減に資する農業農村整備（仮）				公募終了
	5号	農業農村工学の発展に向けた各研究会の取組み（仮）				公募なし
	6号	大会特集号（京都支部）（仮）				公募なし
	7号	農業農村整備事業における再生資源の利活用（仮）				2月14日
	8号	農業農村整備事業における気候変動への対応および貢献（仮）				3月14日
	9号	“むらづくり”・“まちづくり”再考—農業農村整備事業と地域づくりを見つめ直す（仮）				4月15日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せ下さ

い。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたします。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

公益社団法人 農業農村工学会
 農業農村工学会誌企画・編集委員会あて
 TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
 E-mail: henshu@jsidre.or.jp

82巻7号テーマ「農業農村整備事業における再生資源の利活用」(仮)

農業農村整備事業は、農地の集積や大区画化を進め、水利施設や農道などの配置や規格を見直すとともに、老朽化した施設を一新する機会でもあります。しかし、その実施段階では、既存施設の撤去や、立木の伐採、建設残土など、建設副産物を発生します。ため池の管理で発生する堆積土砂、集落廃水の汚泥、水産・林産も含め、さまざまな廃棄物が生じます。これらの建設副産物やその他廃棄物の処理が問題となりますが、その解決策のひとつに再生資源としての活用があります。この環境

負荷の少ない循環型社会経済システムを構築するためには、再生資源の利活用の推進が必要です。特に農業農村整備事業は、環境との共生が強く期待される「農業」にかかわる事業であることから、循環型システムの構築を先導的に進めなければなりません。

学会誌82巻7号では、現在研究・導入が進められている、再生資源の農業農村整備事業への利用の現状や利活用システムの枠組み、課題などに関する報文を広く募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」購読のお願い

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、インパクトファクターが1.025と高く、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。

掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)

- ⑧ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑨ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑩ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

出版社: Springer-Japan 社

発行スケジュール: 年4回

購読料: 正会員・名誉会員 12,000 円

学生会員 (院生含む) 8,500 円

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は、まず農業農村工学会にご入会の上、お申し込み下さい。

なお2013年発行予定のVol.11はNo.1~No.4の合併号が2013年1月に発行されておりますので、購読の申込みをいただきますと、この合併号をお届けし、次回は2014年3月頃の送本となります。

申込先: 農業農村工学会編集出版部 中村あて

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2012年1月から2014年12月までの編集事務局 (投稿先) のお知らせ

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering) の機関誌、国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」は、2013年1月末にVol.11, No.1~No.4の合併号が発行されました。

本ジャーナルは2009年12月より、トムソン・ロイター社のSCIE (Science Citation Index Expanded) に収録されています。わが国においても学術誌の評価に、SCIEのIF (Impact Factor) が利用されており、本国際ジャーナルはIF=1.025と高い評価を得ております。

また、世界14カ国からEditor (23名) を選出することによ

り、国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし、さらに国際的な流通を考慮して、国際出版社として著名なSpringer社からの刊行です。掲載論文は、Review, Article, Technical Report および Short Communication の4種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに、年4回の発行としております。投稿者は農業農村工学会員でPWE誌の購読者に限りませんが、投稿料、掲載料などを無料として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

2012年1月から2014年12月までの編集事務局は日本です。
 投稿先: オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) をご利用

用下さい。

編集事務局 : Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University.

6-10-1 Hakozaki Higashi-Ku, Fukuoka-shi, 812-8581 Fukuoka, Japan

TEL : + 81-92-642-2909 FAX : + 81-92-642-2914

E-mail : yshinogi@bpes.kyushu-u.ac.jp

編集方針 : 水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は、水田農業地帯における灌漑と排水、土壌保全、土地資源や水資源の保全と管理、水田の多面的機能、農業政策、地域計画、バイオ環境システム、生態系の保全、水田保全、田畑輪換等である。

編集体制

・ Editor-in-Chief : Dr. Masaru MIZOGUCHI (Japan)
Department of Global Agricultural Sciences, University of Tokyo, Tokyo, Japan

・ Editors 14 カ国から 23 名

・ Editing Board 27 名

・ Managing Editors

Chief Management Editor : Dr. Yoshiyuki SHINOGI

The Graduate School of Bioresource and Bioenvironmental Sciences, Kyushu University, Japan

Dr. Haruhiko HORINO

Life and Environmental Sciences, Osaka Prefecture University, Japan

Dr. Kazunari FUKUMURA

Department of Agricultural Environmental Engineering, Utsunomiya University, Japan

Dr. Yu-Pin Lin

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. CHOI, Jin Yong

Department of Landscape Architecture and Rural System Engineering, Seoul National University, Korea

Dr. Ming-Daw SU

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

出版社 : Springer-Japan 社

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

平成 25 年度京都支部地方講習会・研修会の開催について (第 2 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



平成 25 年度農業農村工学会京都支部地方講習会・研修会を下記のとおり開催します。

1. 日 時 平成 26 年 2 月 13 日 (木)

10 : 30 ~ 受付

11 : 00 ~ 12 : 00 地方講習会

13 : 00 ~ 17 : 00 支部研修会

2. 会 場 中電ホール

〒461-0006 名古屋市東区東新町 1 番地

TEL&FAX 052-951-6908

<http://www.chudenfudosan.co.jp>

3. 参加申込方法

(1) 参加申込み

参加申込みは、農業農村工学会ホームページ内の京都支部地方講習会・研修会参加申込みについて (<http://www.jsidre.or.jp/shibu/kyoto/>) にアクセスし、参加申込書をダウンロードして下さい。

参加申込書により所属ごとに取りまとめ、E-mail、FAX または郵送で下記 4. の事務局へお申し込み下さい。

(2) 参加申込期限 平成 26 年 1 月 31 日 (金)

(3) 参加費 地方講習会・研修会 会 員 : 2,000 円

非会員 : 2,500 円

(4) 参加費の納入方法

銀行振込みか当日払いとなります。

どちらで納入するか、参加申込書へご記入願います。

(5) 参加費の振込先

銀行名 : 三菱東京 UFJ 銀行名古屋市役所出張所

口座番号 : 普通 1126750

口座名称 : 農業農村工学会京都支部東海事務局担当
家加津彦

※ 振込手数料は、各自にてご負担願います。また、振込元を確認するため、所属、氏名などをご記入下さい。

なお、振込み後は参加費の返還には応じられませんのでご了承下さい。

4. 参加申込先・問合せ先

農業農村工学会京都支部東海事務局

(東海農政局整備部設計課内) 中家, 牧之瀬

〒460-8516 名古屋市中区三の丸 1-2-2

TEL : 052-223-4634 FAX : 052-219-2667

E-mail : katsuhiko_nakaya@tokai.maff.go.jp

masanori_makinose@tokai.maff.go.jp

第 51 回材料施工研究部会シンポジウムの開催について (第 2 版)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 主 催 農業農村工学会材料施工研究部会
2. テーマ 中国四国地方における農業生産基盤施設の防災
3. 期 日 平成 26 年 2 月 7 日 (金)
4. 会 場 岡山大学 創立五十周年記念館
〒700-8530 岡山市北区津島中 1-1-1
<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/profile/kinenkan-index.html>
5. プログラム
10:00~ 開会式
開会挨拶 材料施工研究部会会長
岡山大学大学院環境生命科学研究科 西村伸一
10:10~10:40 材料施工研究部会研究奨励賞授与式
10:50~11:50 <基調講演>
国土強靱化と農村の防災・減災
農林水産省農村振興局整備部防災課 鈴木浩之
11:50~13:00 (昼食)
13:00~16:00 <一般講演>
(1) 平成 25 年豪雨による中国四国地方における農地・農業用施設の被害と対応
農林水産省中国四国農政局整備部 小野寺晃宏
(2) 農業農村整備を活用した南海地震対策の推進
高知県農業振興部農業基盤課 釣井利勝
(3) 岡山県におけるため池の現状と課題
岡山県農林水産部耕地課防災班 則枝 積
(4) ため池の氾濫解析・ハザードマップの作成について
香川県土地改良事業団体連合会 高尾武司
- (5) ロックボルトを用いた水路トンネルの補強
日化エンジニアリング (株) 若林 孝
- (6) 環境と防災に係る瀬戸内の最近の話題
岡山大学大学院環境生命科学研究科 大久保賢治
16:00~ 閉会式
6. 参加費 4,000 円
当日、受付にて徴収させていただきます。
7. 申込み
以下の項目をご記入の上、FAX もしくは E-mail にてお申し込み下さい。その際、標題欄には「材料施工研究部会シンポジウムへの参加申込」と明記して下さい。
①参加者氏名 ②所属機関名 ③所在地 ④ TEL, FAX, E-mail アドレス ⑤弁当 (代金 1,000 円) 予約注文希望の有・無 ⑥ CPD 番号 (登録希望の方)
8. 申込先
〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中 3-1-1
岡山大学環境理工学部環境管理工学科
材料施工研究部会事務局
申込受付担当: 柴田俊文
TEL: 086-251-8154 FAX: 086-251-8881
E-mail: tshibata@cc.okayama-u.ac.jp
9. 申込締切 平成 26 年 1 月 24 日 (金)
10. 宿 泊
各自で手配して下さいますようお願いいたします。
11. 問合せ先 申込先と同じです。

平成 25 年度農業水利研究部会研究集会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



- 農業水利研究部会では、平成 25 年度研究集会を下記のとおり開催いたします。
- 研究集会の趣旨として、平成 11 年に制定された食料・農業・農村基本法において、「国土の保全、水源のかん養、自然環境の保全、良好な景観の形成、文化の伝承等農村で農業生産活動が行われることにより生ずる食料その他の農産物の供給の機能以外の多面にわたる機能 (以下「多面的機能」という。) については、国民生活及び国民経済の安定に果たす役割にかんがみ、将来にわたって、適切かつ十分に発揮されなければならない」との条文が付され、全国各地で農業・農村の多面的機能の増進対策が進められています。そこで、当部会では、農業用水の多面的機能の増進の取組みと地域振興との関わりに焦点を当て検討することにしましたので、ここにご案内いたします。なお、参加はどなたでも自由です。
1. 期 日 平成 26 年 2 月 22 日 (土) 13:00~17:00
 2. 場 所 航空会館 504 会議室
東京都港区新橋 1-18-1 TEL: 03-3501-1272
交通機関: JR 新橋駅日比谷口・地下鉄東京メトロ銀座線・都営浅草線⑦出口より徒歩 6 分、地下鉄都営三田線内幸町駅 A2 出口より徒歩 1 分
 3. テーマ 農業用水の多面的機能の増進と地域振興
 4. 講演者および題目
①「農業用水を巡る最近の動向 (仮題)」
農林水産省農村振興局水資源課課長補佐 岡本裕也
②「農業用水の多面的機能を活用した地域振興と住民参加による資源管理 (仮題)」
水土里ネット寒河江川理事長 高橋龍一
③「農業用水路と水田のネットワークによる酒匂川水系のメダカの保全と地域の活性化 (仮題)」
酒匂川水系のメダカと生息地を守る会 高橋由季

5. 参加費 500円
 6. 参加申込みおよび問合せ先
 農業水利研究部会事務局
 〒156-8502 東京都世田谷区桜丘 1-1-1

東京農業大学地域環境科学部生産環境工学科
 地域資源利用学研究室 (担当: 中村好男)
 TEL: 03-5477-2337 FAX: 03-5477-2620
 E-mail: nyoshi@nodai.ac.jp

水土文化研究部会第11回研究会の開催について (第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



ビジョン『新たな〈水土の知〉の定礎に向けて』において、「水土」は「〈水〉と〈土〉と〈人〉の複合系」と定義されている。そこで、農業水利システムを対象として、「農業水利システムの果たした役割と今後の展開」と題して、第11回水土文化研究会を開催する。

1. 日時 平成26年2月27日(木) 13:00~16:00
 2. 場所 農林水産省共済組合南青山会館
 〒107-0062 東京都港区南青山5-7-10
 TEL: 03-3406-1365

3. プログラム (表題は変更されることがあります)
 講演

「北海道における農業水利システムの変遷について」

(独) 土木研究所寒地土木研究所 中村和正

「農業水利システムの歴史とストックマネジメントとの関わり」

(独) 農研機構農村工学研究所 樽屋啓之

質疑応答

4. 参加費 無料

* (一社)土地改良建設協会研修会との連携行事となります。

第45回セメント系固化材セミナーの開催について

—最近の固化処理について—

「セメント系固化材による地盤改良マニュアル」は1985年に初版を発刊して以来、建設技術者の手引書的な役割を担ってまいりました。第4版では、第3版改訂以降の10年間の新技術・建築基礎地盤の改良・固化不溶化などの分野の充実を図るとともに、現場に役立つと思われるデータ類を数多く記載しました。

本セミナーは、この改訂版をテキストとし、最近の固化処理について編集に携わった先生方による講演を行います。この機会に是非ともご聴講いただきますようご案内いたします。

1. 主催 (一社)セメント協会
 2. 後援 農業農村工学会ほか8学協会
 3. 日時 2014年3月7日(金) 10:00~16:50
 4. 場所 JA共済ビル1F カンファレンスホール
 (〒102-0093 東京都千代田区平河町2-7-9)
 5. 定員 300名
 (定員になり次第締め切らせていただきます)
 6. 受講料 1名当たり12,000円(テキスト代を含む)
 7. プログラム
 1. 総論—セメント系固化材の地盤改良への多様な展開—

京都大学名誉教授 嘉門雅史

2. 地盤改良の原理と改良土の特性

(一社)セメント協会セメント系固化材普及専門委員会

委員長 金城徳一

トピックス. 地盤改良の耐震効果—東日本大震災における地盤改良調査を踏まえて—

(一社)セメント協会震災調査WG 斎藤準護

3. 深層改良

東京工業大学大学院理工学研究科教授 北詰昌樹

4. 環境と固化処理

京都大学大学院地球環境学堂教授 勝見 武

5. 建築基礎地盤の改良

大阪市立大学大学院工学研究科教授 大島昭彦

8. 申込先

(一社)セメント協会・普及部門

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町1-9-4

TEL: 03-5200-5060 FAX: 03-5200-5062

*本セミナーは建設系CPD協議会の相互認証プログラムです。